

中学生

月間報告

2016年8月

生徒氏名: F

責任者:

【責任者とは】

授業では複数の講師がローテーションしながら1人の生徒を指導しますが、月間報告は1人の講師が長期的に担当し、生徒の成長を見守っています。また、この報告書は講師全体で共有され、授業に還元しています。

①今月の最重要課題とその対策

結論を意識して順序立てて述べる

②その他課題と今月の対策（「今月の対策」は具体的な内容が必要な場合のみ記入します）

現状の課題	今月の対策
(作文)具体例を入れる	自分の経験を振り返る
(作文)情報同士のつながりを意識する	具体例が「言いたいこと」に対して適切か吟味する

③先月の教材ごとの取り組み数とその状況

教材名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	状況
意見作文	1	1	0.5	0.5						よく考えながら取り組んでいる

【取り組み数について】
上記の数字「1」は、作文を1本書き上げたことを意味します。自分の意見を述べる作文においては、深く考察することを重視しているため、1つの課題を終えるのに複数回の授業時間を割くこともしばしばあります。

④責任者コメント欄

先月は、「生活の中でストレスに感じることを挙げ、なぜそのように感じるのかを分析する」という課題に取り組みました。Fさんは、その場面として「駅の改札で定期券のタッチがうまくいかなかったとき」を挙げていました。特に朝の通学のときに強くストレスを感じるとのことでしたが、その理由が述べられていませんでした。それを尋ねると、「混雑して後ろの人に迷惑をかけたくないという気持ちが生まれて焦るから」という理由があったようです。しかし、講師とのやり取りを経て昼間のすいている時間帯であれば特にストレスは感じないということに気がきました。そこから考えると、「そのストレスは改札の機械によるものではなく、自分の置かれている状況が作り出しているのではないか」ということに思い至りました。他にも「同じことでも状況によって捉え方が異なる場面」を思い返してもらい、「友達と話すときに、自分の気分が良いときには楽しいのに対して、怒られた後だったり焦ったりしているときには強い口調になることがある」という例を挙げることができました。このことを踏まえて、「機械の処理機能がストレスの原因ではないので、改良する必要はない」との結論に至りました。初めは「機械を改良してほしい」とまとめていたものが、いろいろな角度から分析することで気付くことができ、結論が変わってくるという面白い学びができたのではと思います。意見作文なので、初めに書き上げたものでも「考え」そのものは打ち出されています。しかし、「なぜ自分はそのように感じるのか」と掘り下げることで、自分自身の意見が深まり、それによって読み手にも「自分の言いたいこと」がきちんと伝えられるようになります。このように考える姿勢を作文だけでなく、実生活の中でも大事にしたいと思います。

⑤保護者記入欄（要望、疑問などありましたら、どのような内容でも構いませんのでお書きください）

■中高生の作文について

中高生は入塾時の力に応じて、要約作文だけでなく意見作文にも取り組みます。提示された課題に対して「自分はどう思うのか」、「それはなぜか」ということを考察していきます。この作文が自分自身を振り返ったり、周りのことに対するアンテナの感度を高めるきっかけになると考えています。

確認印